

1

大分県の概要

大分県の位置

大分県は「アジアの玄関口」である九州の北東部に位置し、北側は周防灘に、東側は伊予灘、豊後水道に面しています。

また、本県には、九州と本州・四国との間を結ぶフェリーの約8割が発着し、東九州自動車道や中九州横断道路を通じて、人の流れ・物の流れが活性化しており、「九州の東の玄関口」としてのポテンシャルが大いに高まっています。



大分県の市町村

大分県は 18 市町村（14 市 3 町 1 村）から構成されています。（平成の大合併前は 58 市町村（11 市 36 町 11 村）総人口は約 112.7 万人（R2.7.1 現在）であり、人口が最も多い市町村は県庁所在地である大分市です。総面積は約 6,341k m²であり、面積が最も広い市町村は佐伯市です（九州一）。

区 分	面 積 R2.1.1 (km ²)	世帯数 R2.7.1 (世帯)	人口 R2.7.1 (人)		
			総 数	男	女
大分県	6,340.76 * A	497,163	1,126,741	534,934	591,807
大分市	502.39	213,493	477,023	229,423	247,600
別府市	125.34 * a	55,090	117,012	53,064	63,948
中津市	491.44 * b	37,813	82,826	40,312	42,514
日田市	666.03	25,515	62,227	29,446	32,781
佐伯市	903.12	29,480	67,122	31,146	35,976
臼杵市	291.20	14,659	36,157	17,137	19,020
津久見市	79.50	7,039	15,928	7,408	8,520
竹田市	477.53 * c	8,624	19,998	9,280	10,718
豊後高田市	206.24	9,876	22,011	10,447	11,564
杵築市	280.08	12,002	28,052	13,522	14,530
宇佐市	439.05	22,669	53,162	24,998	28,164
豊後大野市	603.14	13,951	33,378	15,535	17,843
由布市	319.32 * a	13,523	32,880	15,539	17,341
国東市	318.10	11,998	26,123	12,436	13,687
姫島村	6.99	842	1,738	819	919
日出町	73.32	11,398	27,942	13,322	14,620
九重町	271.37 * c	3,452	8,763	4,162	4,601
玖珠町	286.60	5,739	14,399	6,938	7,461

* A 大分県及び福岡県、熊本県は境界の一部が未定のため、参考値である

* a 別府市及び由布市は、境界の一部が未定のため、参考値である。

* b 中津市及び福岡県田川郡添田町は、境界の一部が未定のため、中津市は参考値である。

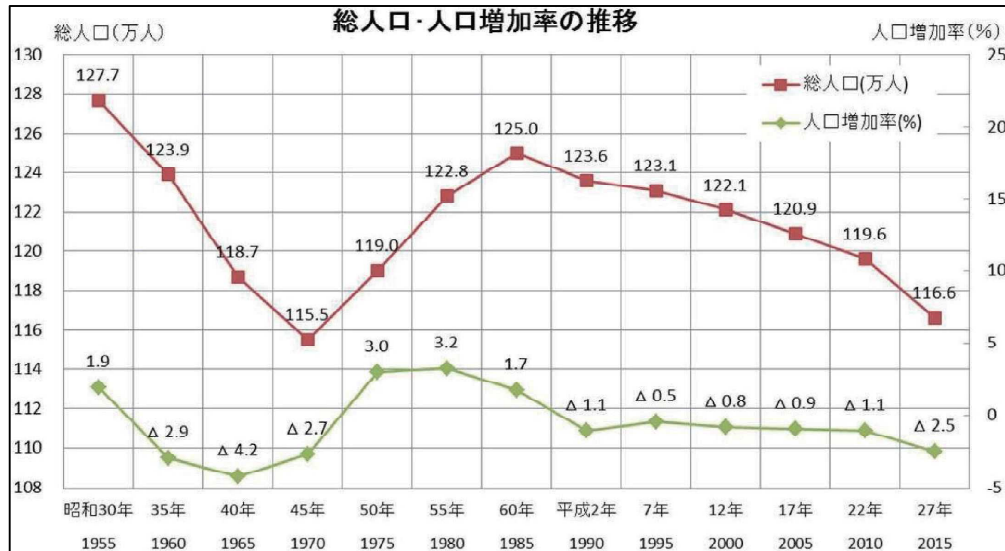
* c 竹田市、玖珠郡九重町及び熊本県阿蘇郡小国町は、境界の一部が未定のため、竹田市及び九重町は参考値である。

資料：国土地理院、県統計調査課

■ 人口の推移

大分県の人口は、昭和30年の127万7千人をピークに減少を続け、昭和45年には115万5千人にまで落ち込みましたが、その後は増勢に転じ、昭和60年には125万人となりました。

しかしながら、昭和60年を境として、東京一極集中や過疎化の進行等により減少傾向が続いており、平成27年には116万6千人となり、昭和45年以来の大きな減少率となりました。



資料：総務省「国勢調査」

■ 将来の人口推計

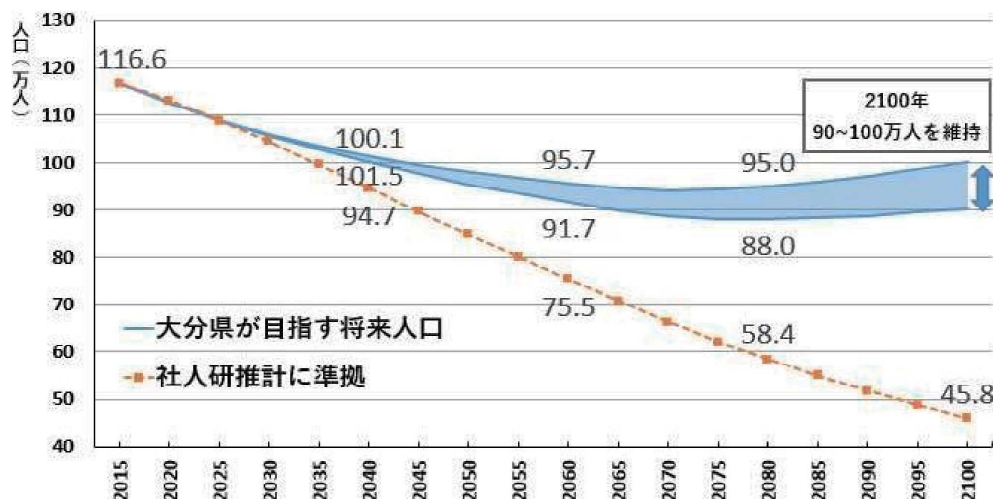
大分県の人口は、このまま何もしなければ、2100年には45.8万人と、人口減少がさらに進行するものと推計しています。

一方で、県民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現など自然増を図り、併せて若者の流入・定着など社会増を促進することで、2100年でも90～100万人程度の人口を維持できると考えています。

この人口維持の実現に向けて、地方創生の取り組みを進めることにより、特に重要な要素である「合計特殊出生率」「出生率」「人口の社会増減」について、以下の指標を達成することが重要です。

合計特殊出生率 2025年(R7年) 1.83	出生数 2025年(R7年)9,000人程度	人口の社会増減 2025年(R7年) 均衡
----------------------------	---------------------------	--------------------------

総人口の将来推計



資料：大分県人口ビジョン（令和2年3月改訂）

大分県の特徴

大分県は、温暖な気候に恵まれ、海や山などの豊かな自然、その中で育まれた新鮮で安全な食材、宇佐神宮や六郷満山、国宝臼杵石仏をはじめとした磨崖仏などの貴重な歴史的文化遺産など多くの地域資源があります。

また、なんといっても県内全域に広がる温泉は、日本一の湧出量と源泉数を誇り、地球上にある11種類の泉質のうち10種類を有するなど、「日本一のおんせん県おおいた」の名にふさわしい環境が整っています。

さらには、「The・おおいた」ブランドとして、関あじ・関さば、おおいた和牛などの高級食材をはじめ、カボスやしいたけなど四季折々の素晴らしい食材も満載です。



日本一の温泉湧出量、源泉数を誇り、バラエティに富んだ温泉が満喫できる別府をはじめ、別府湾沿いに開けたエリア。海を望む水族館やテーマパークなどのレジャーも充実。



かつて宇佐神宮を中心とした八幡文化で栄えた宇佐地域と、「六郷満山」と呼ばれる独自の仏教文化が開いた国東半島を中心とするエリア。磨崖仏や石橋など石造物も豊富。



江戸幕府の直轄地「天領」として栄え、今も当時の町並みと町人文化が残る日田、城下町の風情が息づく中津など、歴史の薫り漂うエリア。新耶馬溪一帯は奇岩奇峰と瀬流が織りなす景勝地。



1700m級の山峰が連なるくじゅう連山をはじめ、祖母・傾山系、由布岳など、雄大な山々に囲まれたエリア。四季折々に色合いを変える大自然の山歩きや高原散策、山間ので湯を楽しめる癒やしのスポット。



清流・大野川の中・上流域に開けたエリアで、豊かな自然が清らかな水を育む名水のふるさと。「九州の小京都」竹田は、岡城址など、当時の隆盛がしのばれる城下町。



日豊海岸国定公園に指定された美しいリアス式海岸が続く、大分県南エリア。旧藩時代のたたずまいが残る臼杵や佐伯など、海辺の城下町は情緒たっぷり。関あじ・関さばをはじめ、豊後水道で揚がる海の幸が絶品。

大分県の日本一

天然自然が豊かな大分県には様々な日本一があります。特に、七島イの生産量は全国で100%のシェアを誇っています。



温泉源泉総数 4,445 孔 (H30 年度末)
温泉湧出量 279kl/分 (H30 年度末)



再生可能エネルギー自給率
40.2% (H29 年度末)



県指定有形文化財 (建造物)
210 件 (R1.5.1)



道路トンネル数
576 本 (H30.4.1)



カボス生産量
3,800t (H29 年)



乾しいたけ生産量
1,038t (H30 年)



七島イ生産量
6.0t (H30 年)



サフラン (花芯) 生産量
15kg (H30 年)



マダケ竹材生産量
24 千束 (H25 年)



ホオズキ出荷本数
1,083 千本 (H29 年)



石灰石生産量
27,040 千 t (H30 年度)

大分県の歴史

大分県は、古くは豊の国と呼ばれ、7世紀の終わり頃、豊前・豊後の二国に分けられました。

8世紀には宇佐八幡宮が全国4万社の八幡の総本宮として栄え、また、国東半島には「六郷満山」と呼ばれる独自の仏教文化が花開きました。

13世紀の初め(鎌倉時代)、豊後には大友氏が守護として入国し、以後約400年間統治が続きました。特に、大友宗麟の時代には、豊前を含め北部九州6か国を支配するまでとなりました。大友宗麟は、キリシタン大名としてキリスト教や西洋文化を積極的に取り入れました。府内(現在の大大分市)、臼杵には中国船やポルトガル船が入り、「南蛮貿易」が盛んに行われ、国際都市として繁栄しました。

16世紀末、豊臣秀吉によって大友氏が除国されると、領国は極端に細分化されました。その後約300年間、小藩分立の時代が続き、県内各所に城下町文化が花開いたことにより、自主自立の気風を育み、個性豊かな人材を生み出しています。

明治になると、大幅な府県改廃が進められ、豊後国は大分県に、豊前国は小倉県になりました。

その後、県の統廃合が行われ、下毛・宇佐両郡が大分県に編入され、今日の大分県域となりました。

3世紀	宇佐邪馬台国説
720ごろ	「豊後国風土記」成る
731	宇佐八幡宮、官弊社となる六郷満山文化、国東半島を中心に展開
1551	フランシスコ・ザビエル来訪
1871	廃藩置県により大分県誕生
1876	下毛、宇佐郡を大分県に編入し、現大分県域が確定
1962	県庁舎が現在の場所に建設される
2006	平成の大合併により18市町村となる

大分県の偉人

(近世…安土桃山、江戸時代)



大友 宗麟 (戦国武将：1530～1587)
キリスト教を保護・推奨、西洋文化をいち早く取り入れ、ポルトガルと親交を結んだキリシタン大名



黒田 官兵衛 (戦国武将：1546～1604)
豊臣秀吉の側近として活躍し、天下統一を支えた天才軍師



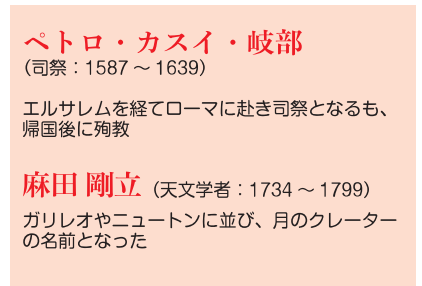
前野 良沢 (中津藩医：1723～1803)
解剖書「ターヘル・アナトミア」を杉田玄白らと翻訳し、「解体新書」として出版



田能村 竹田 (南画家：1777～1835)
詩・書・画一体の独自の風雅の世界を確立し、代表作のいくつかは国の重要文化財に指定



広瀬 淡窓 (儒学者、教育者：1782～1856)
近世最大の私塾 咸宜園を創設し、門下三千有余の中から多方面に人材を輩出



ペトロ・カスイ・岐部
(司祭：1587～1639)

エルサレムを経てローマに赴き司祭となるも、帰国後に殉教

麻田 剛立 (天文学者：1734～1799)
ガリレオやニュートンに並び、月のクレーターの名前となった

大蔵 永常 (農学者：1768～1860)
九州各地をはじめ、大阪から東北にまで農業技術を学ぶ

(近代…明治以降)



福沢 諭吉 (啓蒙思想家：1835～1901)
慶應義塾の創設者であり、「学問のすゝめ」「西洋事情」などを執筆。一万円札の肖像としても有名



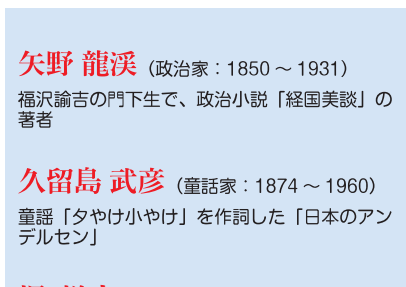
滝 廉太郎 (作曲家：1879～1903)
明治の中期、音楽界に彗星のように現れ、「荒城の月」「花」など不朽の名曲を残した。23歳で死去



野上 弥生子 (小説家：1885～1985)
夏目漱石の指導を受けて小説を書き始め、「海神丸」「秀吉と利休」など多数の作品を発表



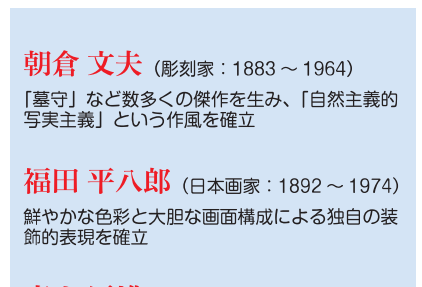
双葉山 定次 (大相撲力士：1912～1968)
前人未踏の69連勝を誇る第35代横綱。愛称は「不世出の横綱」「相撲の神様」「昭和の角聖」



矢野 龍溪 (政治家：1850～1931)
福沢諭吉の門下生で、政治小説「経国美談」の著者

久留島 武彦 (童話家：1874～1960)
童謡「夕やけ小やけ」を作詞した「日本のアンデルセン」

堀 悌吉 (軍人：1883～1959)
平和と軍縮を希求した知性派海軍中將



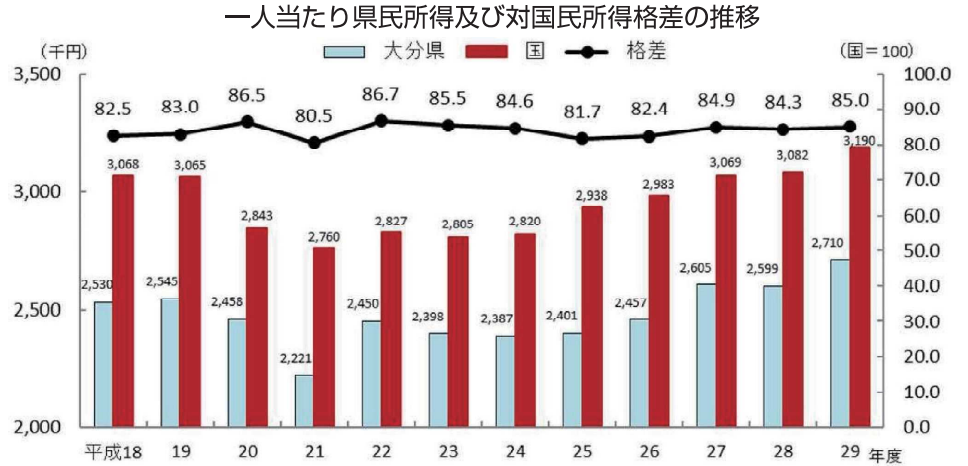
朝倉 文夫 (彫刻家：1883～1964)
「墓守」など数多くの傑作を生み、「自然主義的写真主義」という作風を確立

福田 平八郎 (日本画家：1892～1974)
鮮やかな色彩と大胆な画面構成による独自の装飾的表現を確立

高山 辰雄 (日本画家：1912～2007)
日本画と洋画の壁を取り除く独自の創作を展開

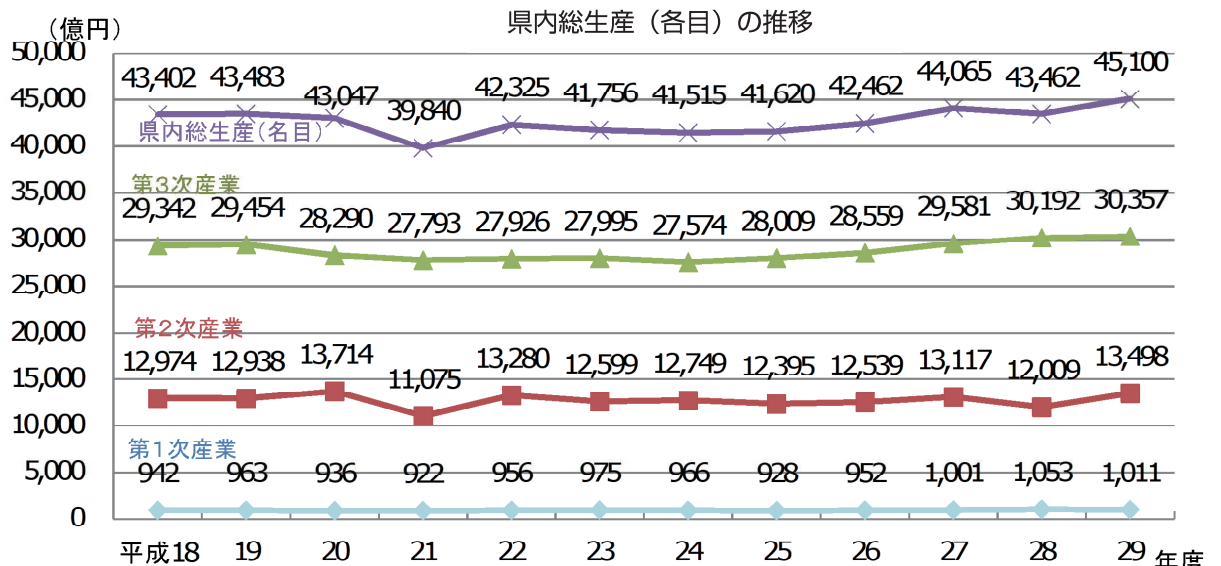
県民経済

平成29年度の一人当たり県民所得は2,710千円となっており、依然として国民所得とは1割以上の格差が生じています。



資料：県統計調査課

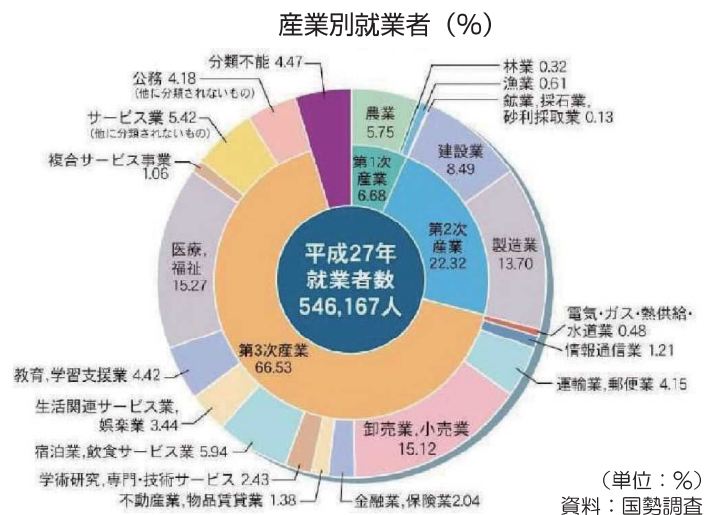
産業構造



資料：県統計調査課

平成29年度の県内総生産（名目）は約4兆5千億円となっており、ここ10年で最高となっています。

また、生産額及び就業者数は、いずれも第3次産業が最も多く、次いで第2次産業、第1次産業の順番となっています。



1

大分県の概要

産業の現状

農林水産業

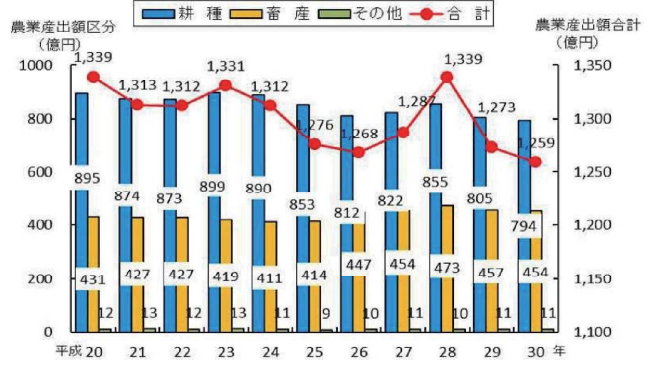
農業では、米のほか野菜（白ねぎ、トマト、いちご等）、果樹（なし、カボス等）、花き（キク、バラ等）の園芸作物や肉用牛を中心とする畜産など、県内各地域の立地条件を活かして多様な展開がなされています。

林業では、日田市、佐伯市を中心とした、スギの木材生産や、豊後大野市や竹田市を中心とした乾しいたけ生産が盛んです。

水産業では、主に単価の高い中高級魚の養殖をはじめとした漁業が営まれています。

農業

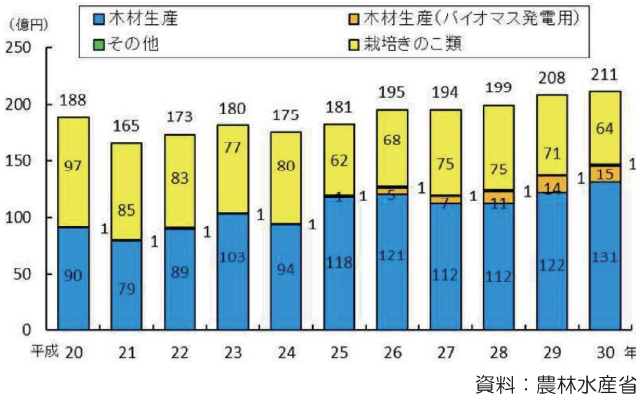
農業産出額の推移



資料：農林水産省

林業

林業産出額の推移



資料：農林水産省

水産業

水産業産出額の推移



資料：農林水産省、県水産振興課

商工業

大分県には、鉄鋼、石油、化学、半導体、機械、自動車、医療機器など幅広い産業がバランスよく立地しており、製造品出荷額（平成30年）は約4兆4,338億円となっています（九州第2位）。

商業については、商業事業所数は減少が続いています。年間商品販売額（平成28年）は約2兆5千億円となっています。



資料：経済産業省



資料：経済産業省

■ 大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」

少子高齢化が進み、全国的かつ本格的な人口減少社会を迎える中、大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015～2020改訂版～」では、目指すべき基本目標を『県民とともに築く「安心」「活力」「発展」の大分県』として県づくりを進め、併せて地方創生に取り組むこととしています。この基本目標の実現に向けて次のように構成しています。

「安心・活力・発展プラン2015」の構成

